

# 卒業論文作成について

## 1. 原稿の作成

原稿はすべて A4 版用紙にワープロで作成する。(活字：12 ポイント、フォント：日本語は明朝体やゴシック体、アルファベットや数字は Times New Roman、Century や Arial 等、マージン上下左右 20mm、35 文字×30 行程度、ページ番号はページの下部中央に付ける)

## 2. 表紙

中心より上段に学位論文と記し、その下に研究題目を記す。本文を日本語で記述する場合は、日本語で題目を記述し、英文の場合は英文でタイトルを記述する。また、右下部に所属、入学年度、氏名、指導主任名、指導教員名および提出年月日を記す。また、同様な書式で中表紙を作成し、目次の前に配置する。なお、背表紙については例を参考に作成する。

## 3. 目次

例を参考にわかりやすい目次を作成する。本文とは独立したページ番号を振るのが好ましい。(本文：アラビア数字、目次：ローマ数字等)

## 4. 本文 (化学工学論文集投稿規定一部抜粋)

4-1 見出しについて 大、中、小の適切な見出しを用い、大見出しは例えば第 1 章 緒言、第 2 章 実験、第 3 章 結果、第 4 章 考察、第 5 章 結言、謝辞、参考文献・引用文献、付録、使用記号などとする。結言以降には章番号を付さない。大見出しは 22 ポイント程度とする。中見出しおよび小見出しの番号は (ハイフン) や . (ドット) 等を用いて 1-1 および 1-1-1 のようにわかりやすく設定し番号を付ける。

4-2 本文中で記述する式について 式は本文中に含めて記載する。引用は Eq.(2-1), Eqs.(2-3) と (2-5) のように略記する。

4-3 図表について 図は本文中では、Figure 1, Figure 2 と 3 のように略記する場合は、Fig.2-1、Fig.2-2 と 2-3 のように引用する。また、表は、Table 3-1 のように引用する。図表の配置場所は、本文中引用文の

後または、引用する章の後にまとめて番号順に配置する。図表の説明は、日本語表記または英文表記とし、すべての図表で統一する。

4-4 本文中での文献の引用 文献の引用は、引用・参照箇所の文末に引用順に<sup>1)</sup>のように右肩に番号を付す。本文中に著者の名前を記述する場合には、Flanagan and Gustav (1955)<sup>1)</sup>、Richard and John(1979a, 1979b)<sup>2,3)</sup>のようにし、名前を記述せずに引用する場合は(Flanagan and Gustav, 1955)<sup>1)</sup>、(Richard and John, 1979a, 1979b)<sup>2,3)</sup>などとする。著者が三人以上の場合は *et al.*を用いる。

4-5 化学物質名および単位について 化学物質名は原則として IUPAC の命名法に従う。SI 単位系を原則とする。記号あるいは用語の後では、[ ] の中に記載するが、数値の後の単位には[ ] を付けない。

例：  $k[W/(m \cdot K)]$  または  $k[W \cdot m^{-1} \cdot K^{-1}]$ 、

$$k=0.58W/(m \cdot K) \quad \text{または} \quad k=0.58W \cdot m^{-1} \cdot K^{-1}$$

脚注はできる限り避けることが望ましいが不可欠な場合は関係する本の箇所に上付き記号 \* をつけ、そのページの原稿下部に記す。

4-6 使用記号のまとめ方 使用記号(Nomenclature)はローマ字、ギリシャ文字、Subscript、Superscript の順に、それぞれアルファベット順に配列し、SI 単位系に準拠した単位を明記する。

4-7 参考文献等 参考文献・引用文献(Literature Cited)は本文中の引用番号順に並べる。日本語文献の場合は、日本語で記載する。雑誌名、書名はイタリック体、巻数はボールド体とする。

記載順序は下記の例に従う。

記載例：

1 成書(単行本)：著者名,書名,ページ,出版者,出版地,発行年の順

1) Carslaw,H.C. and J.C.Jaeger, *Conduction of Heat in Solids*. 2nd ed., pp.198-201, Clarendon Press, Oxford, U.K. (1960)

2 雑誌(定期刊行物)：著者名;"論文名"雑誌名,巻数,ページ,発行年の順

2) Konno,M., T.Muto and S.Saito; "Coalescence of Dispersed Drops in an Agitated Tank" *J.Chem.Eng.Japan*, **21**, 335-338(1988)

例：表紙・中表紙

# 卒業論文

## テーマ

金沢大学物質化学工学科  
化学工学コース  
平成〇〇年度入学  
石川慶次

指導主任	前田太郎	教授
指導教員	前田太郎	教授
	加賀利家	准教授

平成××年 2月 30日 提出

例：背表紙

背表紙の幅は適宜ファイルに合わせること

平成
年度
卒業論文
研究 題目
氏名

例：目次

## 目 次

第 1 章	緒言		
	1-1	はじめに	1
	1-2	本実験の目的	5
第 2 章	試料の作製		
	2-1	目的	6
	2-2	作製手順	6
	2-2-1	試料の分析	8

例：図について

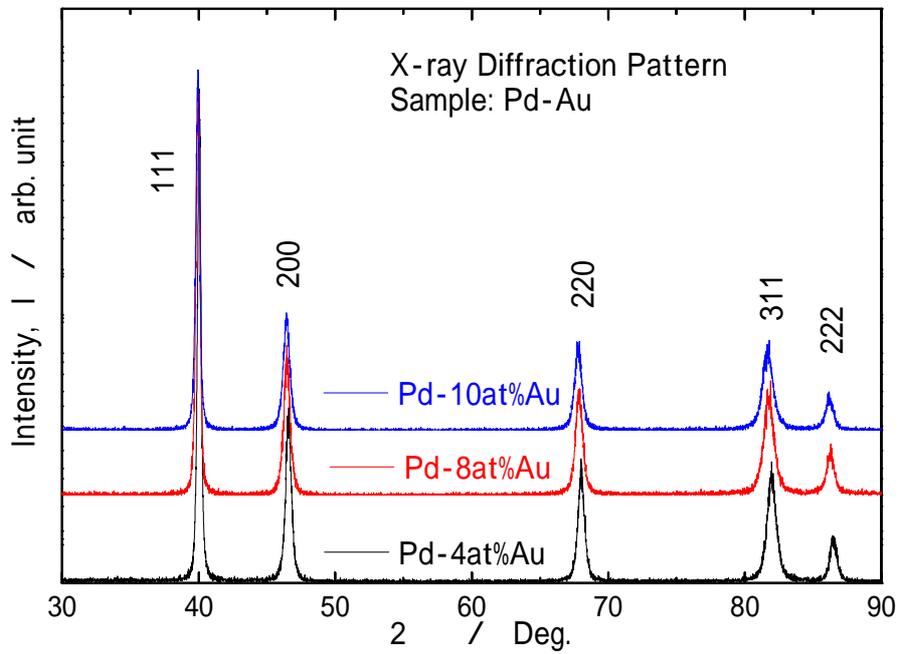


Fig.2 - 3 Pd-Au 合金の X 線回折パターン

(日本語表記または、英文表記)

例：表について

Table 2 - 2 Pd-Au 合金の格子定数

Sample	Atomic Ratio / at%	Lattice Parameter / Å
Pd-Au Alloy	4	3.896
	8	3.905
	10	3.9089